

各地域に生活支援コーディネーターの配置を！

生活支援
問 「こけい」に続く「ふらっとカフェ」の様子はどうか。
答 高齢者が歩いていける身近な場所での事例紹介やアドバイスなどの支援を準備している。
問 地域包括ケアシステムの取り組みの様子はどうか。
答 地域の福祉活動色々なサービスにつなげられるよう、市全体を担当する「生活支援コーディネーター」を社協に1名配置し、生活支



緑風会
秋久憲司

援サポーターの養成や新しいサービスの開発に向け検討している。
問 今後は各地域の「生活支援コーディネーター」の配置が必要だがどうか。
答 平成30年度までに日常生活圏域への配置と「協議体」の設置を検討している。



ご近所のお家で「ふらっとカフェ」

◆**その他の質問項目**
 ◆市民と津山城・公園のあり方
 ◆公共施設の整理統合と市民サービス充実

意見書提出

議員提案の意見書が提出され、議会で審議を行い、賛成多数で**可決**されたことにより、政府関係機関に意見書が提出されました。

「全国森林環境税」の創設に関する意見書

【意見書要旨】市町村が主体となって実施する森林整備等に必要な財源に充てるため、「全国森林環境税」の早期導入を求める。



私はこう考える！ 賛成・反対討論

反 対

中村聖二郎議員 地方自治体が独自導入している森林環境税との二重課税になるとの意見や、都道府県の役割調整などもあり、税創設を急ぐ必要はない。企業に対する地球温暖化対策税の拡充を図るべきである。

賛 成

金田稔久議員 市町村の森林施策への大きな力添えとなり、国土の保全、地方創生につながるものである。おかやま森づくり県民税との関係については、同県民税の5年毎の見直しの際に整理されるものと考えている。

反 対

黒見節子議員 森林が抱える課題の重要性は十分承知しているが、おかやま森づくり県民税との整理、国と地方自治体の役割分担、市町村との十分な意見交換を行う必要があり、現時点では賛成できない。

議員の判断は？

議案等への賛否状況一覧

※ ○：賛成 ×：反対
 ※ 賛否状況は議員の申告等に基づいて作成しております。
 ※ 河本英敏議員は議長のため、採決には加わりません。
 ※ その他の議案等は原案可決、原案同意、原案答申となりました。

議案 番号	議員名 議案名	秋久憲司	安東伸昭	岡田康弘	岡安謙典	小椋多	金田稔久	木下健二	黒見節子	近藤吉郎	田口浩二	竹内邦彦	津内靖人	津本憲一	中島完一	中村聖二郎	西野修平	野村昌平	原行則	広谷桂子	政岡哲弘	松本義隆	美見みち子	村田隆男	森岡和雄	吉田順次	吉田耕造	審議結果		
																												賛成	反対	議決結果
第18号	平成29年度津山市一般会計補正予算（第3次）	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	○	○	×	×	×	×	×	×	18:9		原案可決
請願 第5号	「協同労働の協同組合法（仮称）」の速やかな制定に関する意見書についての請願書	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	25:2		採択

プールと武道館建設の考えは

施設整備
問 新たな公認プールと総合武道館建設の考えは。



耐震化が予定されている文化センター

答 主催者の自主開催が基本だが、補助制度などで支援を行う。

誘致
問 中学生硬式野球大会（ヤングリーグ）の開催を今後誘致しないのか。
答 そのようなことは言っていない。

問 市長は「A氏が私と選挙を10回やっても私には勝てない。来年度の事業も今からやればいい」と言ったのか。
答 合併特例債などの有利な財源を活用するため、早期着手が必要。今が最適と判断。

農地
問 加茂川下流開拓土地改良区の農地の状況は。
答 一部、荒廃農地も見受けられる。



市政会
松本義隆

答 財源を含めた検討が必要。
問 文化センター耐震化はなぜ急いでやるのか。選挙前なので少し時間をおいては。
答 合併特例債などの有利な財源を活用するため、早期着手が必要。今が最適と判断。

ガラスハウスの集客状況は



清流の会
近藤吉一郎

スポーツ
問 津山市における特徴あるスポーツ施設はガラスハウスだと思うが、今年の夏は猛暑が続いたため各地のプールもにぎわったと聞いている。今年の集客状況や取り組みは。
答 指定管理者からの報告によると7月と8月の来場者数は、合計50,336人で昨年より4,279人、約10%増加している。特に一般来場者の増加が大きく影響しており、津山市に移譲された2011年以降で



たくさんの来場者でにぎわうガラスハウス

は、最高の人数であった。この夏の取り組みとしては、宣伝媒体にWEB広告やSNS広告を取り入れ、特にナイトプールの利用を宣伝したことが効果を上げ、入場者数を増やすことに成功している。

ふるさと納税の現状と今後

ふるさと納税
問 ふるさと納税が返礼品による寄附金の争奪戦のようになり、本来の趣旨から脱線している現状についての見解、今後の対応は。
答 返礼品ではなく、各自自治体が切磋琢磨し、地域を良くする意味での競争ととらえ、趣旨をふまえ、地場産業の振興などに取り組む。豪華な返礼品を設定するのではなく、返礼品送付にかかる費用を差し引いた後、半分程度は各種事業に活用可能



日本共産党
津山市議団
中村聖二郎

で、返礼品提供事業者に大きな負担を強いることなく、特産品PRを行うことなどに考慮し、返礼品割合を寄附額の35%としているが、県自治体の見直し状況などをふまえ、今後は総務省の通知内容に従い、3割以下に変更する。



◆**その他の質問項目**
 ◆農業問題
 ◆水道局建設工事等